

常照

第769号

本願寺小樽別院

二月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 二月七日(水)～十一日(日)

講師 山口教区防府組 万巧寺
石丸 涼 道 師

○後期 二月十三日(火)～十四日(水)

講師 北海道教区後志組 明善寺
鹿谷 賢 純 師

二月十五日(木)～十六日(金)

講師 北海道教区後志組 本念寺
桐木 眞 英 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。
どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院くださいますよう、
お待ちしております。

元旦と元日

正月くらいゆつくりしましょう：なんていっても、今では年末年始のカウントダウンのイベントや正月も商業施設は営業しております。「商魂たくましいなあ」と思いながらも、しかし暇をもてあまし出かけたりするのであります。

『一年の計は元旦さいざつにあり』という言葉。この一年、幸先さいさきよくスタートを切るためにあたり昔はよく言ったものがあります。最初の計画が肝心、しかも早くやった方がよいという意味ですね。

ところで、一年の計が元日にありでなく元旦げんたんにありというのはなぜでしょうか？

調べてみますと「元日」は年の一番最初の日、つまり一月一日の事を言います。では、同意語として使われる事も多い「元旦」はどんな意味なのでしょうか。「旦」の字、日に一と書きますが、旦の下線は地平線を表し、上の日は太陽を表している事から地平線の上に太陽が昇る様子を字に興おこしたとされています。

したがって日の昇る朝が旦でありますから、元旦とは一月一日の朝の事を

指します。一年の計（計画）を一月一日の朝に決めてすぐさま行動しなさいという教訓なのでしょう。せつかちなのであります。せつかちというか、お正月は朝から家でじつくりこの一年の目標をたてようじゃないかと考えられてきたのであります。「後で」とか

「そのうち」なんて言っておられるほど人生は甘くないということでしょう。

あの頃と時代は変わりました、正月から商売に精をだすのも結構。遊びに出かけるのも結構。しかし、何より最初によく考えてから行動しましょうという大事な教えは時代を経てもかわら

一方で

ないのであります。

「人生は思い通りにならない。思い通りにしようとするから苦しみが生まれるのだ」とお釈迦様は不変ふへんの道理をお説きくださいました。まことに仰おっしゃるとおりで、人間は年をとり、病に立ち向かっていくのであります。願えども若返ることも、健康になつていくことも自分の進む道とは真逆の方向であります。だから苦しいのです。

おおよそ、老病死に逆らうということは文字通り逆方向に行こうとする行

為であります。あやのこうじ綾小路きみまろさん

も、「長生きなんてしたくない」と言つて葉をのむ」なんて皮肉を込めて私達のありようを笑いとばしてください。

では、私達は自分の人生のこの先をどのように思い描いているのでしょうか？

一生の計は？

それこそ私達は、一年の計といわず一生の計を考えているのでしょうか？「死んだらおしまい」それも人生でしょう。流行のエンディングノートと

やらを書いてみるのも一興でしょう。

しかし縁あつて浄土真宗の教えに触れたからには、息を引き取るのがゴールではなく、順番がまわってきたら、今度は私が仏とならせていただき縁ある方々を導くはたらきとなるのです。

今の自分は亡き方が導いてくださつて、阿弥陀様のお慈悲に耳を傾けるように育てていただいたのであります。

そう思えば一生の計は、今、この私
が阿弥陀様の願いを聞かせていただき、そこから時間の経過に逆らつていくばかりの人生が変わつてはいくのではないのでしょうか？